［平成１７年度普及に移す技術］

［普及に移す技術名］ダイズのフタスジヒメハムシの要防除水準

［要約］８月４半旬から払い落としシートを用いて、約５日毎に３回払い落とし調査を行い、フタスジヒメハムシ成虫が66頭以上いる場合は、防除する。

［キーワード］ダイズ、フタスジヒメハムシ、払い落としシート、要防除水準、黒斑粒

［担当］農業試験場・生産環境部・昆虫研究グループ

［連絡先］電話 0776-54-5100、電子メール y-kitajima-fi@pref.fukui.lg.jp

［分類］普及

［背景・ねらい］

ダイズのフタスジヒメハムシは近年発生が多く、子実に被害を及ぼす重要害虫である。これまで払い落としシートにより、発生消長を把握することはできるが、防除要否の目安となる基準が示されていない。そこで、本虫の発生量と被害の関係から、払い落とし調査による要防除水準を明らかにする。

［技術の内容・特徴］

１．オオムギ跡作ダイズ（６月10日前後播種、エンレイ）における発生消長からフタスジヒメハムシ第２世代成虫の発生初期は８月上旬から中旬頃、発生最盛期は８月下旬から９月上旬頃である（図１）。

２．払い落としシートを用いた1.5m、２条の払い落としによる第２世代成虫の発生最盛期における払い落とし成虫数と収穫期の黒斑粒率には正の相関が見られ、黒斑粒率５％に達するときの払い落とし虫数を要防除密度と設定すると、66.3頭が要防除水準になる（図２）。

［技術の活用面・留意点］

１．この要防除水準は、長さ150㎝、幅80㎝のダイズ払い落としシート（サカセ・アドテック社製）を用いた払い落としにより行う。使用方法の詳細は平成14年度普及に移す技術を参照する。

２．フタスジヒメハムシ第２世代成虫の発生時期は年次変動が大きく、発生初期から発生最盛期までの時期が短いので、８月４半旬（莢伸長初期）から約５日間隔で、８月６半旬（子実肥大中期）までに３回払い落とし調査を行う。圃場あたり３ヵ所以上調査を行う。

３．７～８月の平均気温が高い場合や、播種時期の早い場合は、発生時期が早まり、発生量も増える傾向があるので留意する。

［具体的データ］

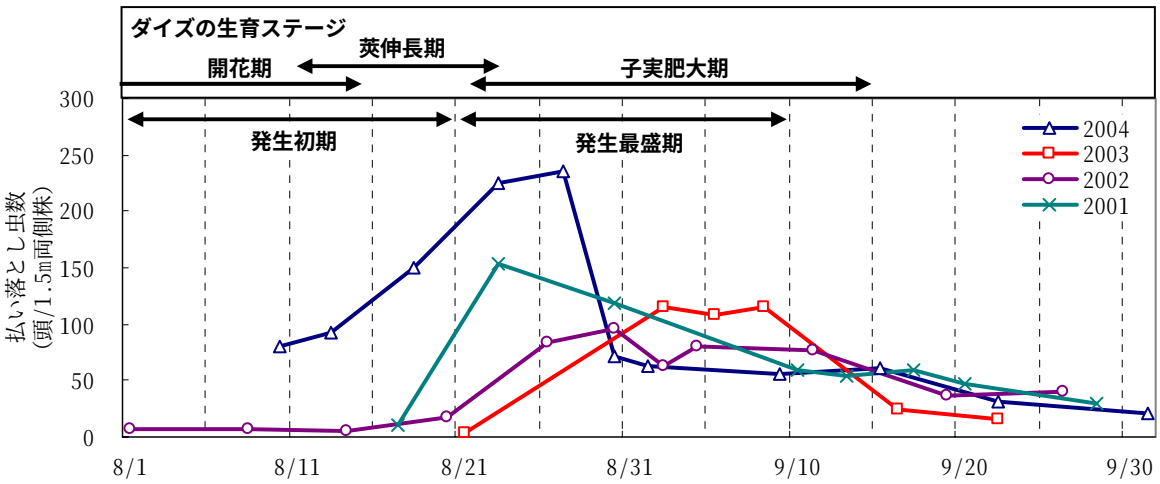

図１　ダイズ圃場における第２世代成虫の発生消長

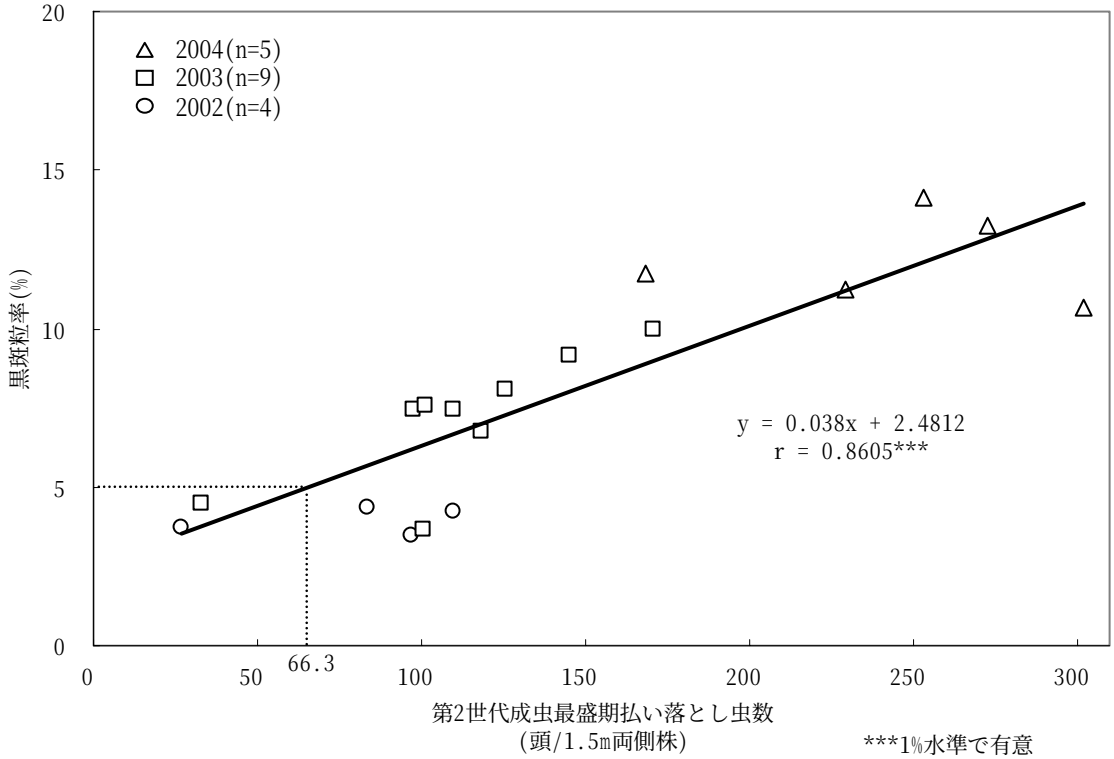

図２　第２世代成虫発生最盛期の払い落とし成虫数と黒斑粒率の関係